ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
# News Letter
Vol.20
SEPTEMBER 2025

## ご報告　令和7年度スキルアップセミナーを開催しました

**日　　時**｜令和7年6月11日（水）14:00～16:00
**場　　所**｜山梨大学甲府キャンパスY-15教室（Teams同時配信）
**講　　師**｜岩月 猛泰 氏（ハワイ大学 准教授）
**タイトル**｜第1部「英語ゼロからの留学 大学教員への道」
第2部「英語論文の書き方講座」
**参 加 者**｜山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 合計70名
**内　　容**｜本セミナーは、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業の一環である、令和7年度スキルアップセミナーおよび本学の博士課程学生支援事業「大学院FD（プレ）研修会」との共催で行われました。第1部では、アメリカの大学で博士号を取得し、米国で大学教員に至るまでの道のりをご紹介いただき、英語習得過程や海外大学での研究活動、教員採用の実情、国際的なキャリア形成に向けたアドバイスを頂きました。第2部では、多くの論文・著書を執筆されたご経験を通し、研究方法論の内容を含む英語論文の苦手克服のためのヒントをご提示していただきました。
**感　　想**｜「岩月先生のお話しを伺ったあと、また英語を勉強しようという気持ちになれました。英語で論文を書くことで世界が一気に広がることに驚きました。」や「社会人として、なかなか留学をすることは計画しにくいですが、日本にいても英語で会話するための勉強法はあるとのこと、確かにそうだと思いました。今一度取り組んでみようと思います。」などの感想をいただきました。

## ご報告　夏休み「理工系体験イベント」を開催しました

**日　　時**｜令和7年8月21日（木）10:00～15:00
**場　　所**｜山梨大学甲府キャンパス
**参 加 者**｜県内外の女子中学生と保護者 合計17名

### 午前の部

**「ドローンの仕組みと活用について」**
**【講師】馬籠　純 氏**
**（生命環境学部 准教授）**

ドローンの基本的な構造や飛行の原理、実際の活用事例について学んだあとは、実際にドローンの飛行操縦体験を行いました。

お友達の手の上に着地成功！

感想：「ドローンもファンデーションも興味があったので楽しかったです。」「特にドローンはテレビで見るくらいだったため、実際に見たり操縦したりできて楽しく、内容もわかりやすかったです。」

### 午後の部

**「ファンデーションをつくってみよう！」**
**【講師】武井 貴弘 氏**
**（クリスタル科学研究センター 教授）**

ファンデーションの主な材料であるセラミック粉、化粧品の製造工程を学習。その後実際にファンデーションを調合し、おみやげに持ち帰りました。

乳鉢で材料を混ぜ合わせます

感想：「文理選択に迷っている時期で今回のイベントに参加させていただきました。先生方や学生の方々が楽しく、そして熱心に教えてくださり、理系に進みたい気持ちが大きくなりました。」

特集

# 山梨大学 男性教職員の育児休業等支援制度

山梨大学限定

本学における男性教職員の育児休業等の制度について特集します。下記の表のように、様々な制度があることをご存じですか？ 雇用形態によって支援の内容は異なりますので、詳しくは[ホームページ]でご確認ください。

**（注）下記は【常勤職員】の場合です。**

色分け
- 男性のみ対象
- 男性・女性両方対象

| 制度 | 制度内容 | 期間・日数等 | 給与 |
|---|---|---|---|
| **配偶者出産休暇** | 妻の出産に伴う入退院などのために取得することができる休暇 | 妻の入院日～<br>産後2週間のうち2日間 | 有給 |
| **男性職員<br>育児参加休暇** | 妻の出産に伴い、当該出産に係る子や小学校就学の始期に達するまでの子を養育するために取得できる休暇 | 妻の出産予定日6週間前～<br>子1歳において、5日まで | 有給 |
| **出生時育児休業<br>（産後パパ育休）** | 育児休業とは別に出生時に取得することができる休業制度　（休業中の就業可能） | 出生後8週間以内に4週間まで | 無給 |
| **育児休業** | 3歳未満の子を養育するために休業することができる制度 | 出産後～子3歳 | 無給 |
| **時間外・深夜勤務<br>の免除又は制限** | 小学校就学前の子を養育する場合、時間外及び深夜の勤務を免除する制度 | 妊娠～子の小学校就学前 | ― |
| **休日勤務免除** | 1歳未満の子を養育する場合、休日の勤務を免除する制度 | 妊娠～子1歳 | ― |
| **保育時間** | 1歳未満の子に授乳などを行うときに取得できる休暇 | 出産後～子1歳<br>1日あたり2回　各30分以内 | 有給 |
| **子の看護休暇** | 小学校3年生修了までの子について、負傷や病気の看護、予防接種や健康診断を受けさせる場合、学級閉鎖や入園（入学）式等に参加する場合に取得できる休暇 | 出産後～<br>子の小学校3年生の年度末<br>年度あたり5日（子2人10日） | 有給 |
| **育児短時間勤務** | 小学校3年生修了までの子を養育している場合、定められた範囲において希望する勤務形態に変更して勤務することができる制度 | 出産後～<br>子の小学校3年生の年度末 | 減額 |
| **育児時間** | 小学校3年生修了までの子を養育している場合、勤務時間の前後において、1日2時間以内で勤務しないことや10日を超えない範囲内で休業を取得することができる制度 | 出産後～<br>子の小学校3年生の年度末 | 減額 |
| **始業・終業時刻の<br>繰り上げ・繰り下げ** | 小学校就学前の子を養育する場合、始業及び終業時刻、休憩時間を変更することができる制度 | 出産後～子の小学校就学前 | ― |

特集

# 山梨大学 男性教職員の育休等取得者インタビュー

山梨大学 男性教職員 育休等取得率 80% (R6年度)

令和7年5月の本学人事課まとめにより、本学男性教職員の育休等取得率は80%に達していることがわかりました。厚生労働省の調査によると、令和6年度の全国平均育休取得率は40.5%です。(令和7年7月発表)全国平均の2倍の数字であり、本学における育休取得を後押しする職場環境が、確実に整備されてきたことがわかります。実際に育休等を取得した感想を、本学の男性教員2名から聞きました。

## 研究力強化推進センター 奥脇 勝也 さん (講師・URA)

◆令和7年7月 インタビュー

**Q. お子様は現在おいくつですか。**
A. 第1子が3歳（幼稚園年少)、第2子が1歳です。

**Q. 育休等を取得した時期・期間を教えてください。**
A. 第1子・第2子ともに、産後すぐからいくつかの育児休暇を組み合わせて、約3ヶ月間です。

**Q. 取得した育休等の種類を教えてください。**
A. 配偶者出産休暇、男性職員育児参加休暇、出生時育児休業（産後パパ育休)、育児休業です。

**Q. 育休等を取得しようと思ったきっかけを教えてください。**
A. 子どもの成長を間近で見守り、夫婦で協力しながら育児に取り組みたいと思い、育休の取得を希望しました。特に第2子出産の際は、上の子の育児もあり、配偶者の負担を少しでも軽くしたいと考えました。

**Q. 職場は育休等を取得しやすい雰囲気でしたか。**
A. 職場には子育てがひと段落した先生や、同じく子育て中の先生などがいます。取得時期が多忙な時期に重なってしまいましたが、応援とともに送り出していただきました。

**Q. 育休中の過ごし方を教えてください。**
A. 第1子の時と比べて、第2子の時には体力的にも精神的にも大変で、正直なところ記憶が曖昧です。(笑)　常に家事に追われていました。

**Q. 復職はスムーズに行えましたか。**
A. 準備万端で育休に入ったため、スムーズでした。

**Q. これから取得を考えているかたに一言。**
A. 育休は職場環境や制度の理解によって、取得のしやすさに差があるのが現状です。制度自体もまだ完成されたものではないと思います。だからこそ、「次の世代のためにも、自分のためにも」積極的に活用してほしいと思います。一人ひとりの行動が制度をより良い方向に進めていく力になると思います。

## 山梨大学教育学部附属小学校 村田 祐樹 さん (教諭・4年担任)

◆令和7年8月 インタビュー

**Q. お子様は現在おいくつですか。**
A. 0歳7ヶ月です。

**Q. 取得した育休等の種類を教えてください。**
A. 「始業・終業時間の繰上げ」で、期間は来年3月までの予定です。私は始業と終業を1時間ずつ前倒ししています。

**Q. 制度を利用しようと思ったきっかけを教えてください。**
A. 県外の知人の教員から「こんな制度を利用して勤務しているよ」と聞き、相談したところ当校でも取得可能であることがわかり、「利用してみよう」と思いました。本校での男性教員の育休等取得者は、私が初めてだそうです。

**Q. 周囲の反応はいかがでしたか。**
A. 妻も教員で産休・育休中ですが歓迎されました。職場では「そんな制度があるの？」という反応で、まだまだ制度が知られていないな、と感じました。

**Q. 実際制度を利用してみていかがですか。**
A. もともと朝は早く出勤していたので、繰上げ出勤は苦にならないです。帰りは…難しいですね。「ただ出勤時間が早くなっただけになってない？」と言われることもあります。(笑)でも早く帰れる日は帰っていますし、「早く帰りなよ」と声掛けや配慮をしてくださる方もいるので有難いです。小学校の教員は業務が多く、色々な制度があっても代替教員が見つからないと、育休取得は難しいのが現状ではないでしょうか。
これは育休制度の問題ではなく、小学校の教員を取り巻く別の問題だと思います。

**Q. 制度を利用して良かったですか。**
A. 子どもがまだ小さいので、早く帰宅できないと起きている時間に接することができません。小さい時期の今しか味わえないことがたくさんあるので、私は利用して良かったです。

育休等取得者の生の声をお届けしました。配偶者に妊娠・出産の予定がある男性教職員の皆さまも、制度の利用を選択肢のひとつとして考えてみてはいかがでしょうか。また、周囲の方が育休を取得する際には、温かく見守り、気持ちよく送り出し、迎え入れる職場環境でありたいですね。

## ご報告 働く女性のリスキリングとキャリアアップセミナー入校式およびガイダンスを開催しました

**日　　時**｜令和7年9月4日（木）13:30～15:00
**場　　所**｜山梨大学 大村智記念学術館 大村記念ホール

「働く女性のリスキリングとキャリアアップセミナー」の入校式が挙行され、20名の受講生が入校しました。本セミナーでは、山梨県内企業や公共機関等で就業中の管理職を目指す社会人女性を対象に、令和8年3月までの6か月間、座学やワークショップによる学びを通して管理的立場の女性を増やすためのキャリアデザインを行いながら、キャリアアップを図る企業女性間のネットワーク構築を目指すものです。

式ではではまず、中村和彦学長が「受講される皆様方には、ご自身の可能性に気づき、学ぶことの本来の面白さを体験し、今後の成長につなげてほしい。」と式辞を述べました。続いて、山岸ゆり山梨県多様性・働き方統括官から「性別に関係なく、一人ひとりが自分らしい生活を実現できる社会へ向け、皆様がその推進力となることを期待している。」と祝辞が贈られ、受講生に温かい激励の言葉が届けられました。その後、入校生を代表し、芦澤美喜さんが「受講生の皆様との出会いを大切にし、積極的に、楽しみながら学びを深めたい。」と抱負を述べました。

入校生代表

また、式終了後はガイダンスを行い、小林明理事（男女共同参画・特命）および志村結美男女共同参画推進室長が挨拶を述べ、スタッフ紹介や本セミナーの概要、講義会場等の大学キャンパスについて説明しました。

## ご報告 ダイバーシティマネジメント研修会を開催しました

**日　　時**｜令和7年9月9日（火）14:00～15:30
**場　　所**｜山梨大学 大村智記念学術館 大村記念ホール（Teams同時配信）
**講　　師**｜犬塚 協太 氏（静岡県立大学 教授）
**タイトル**｜「職場におけるダイバーシティ推進の意義と必要性～組織の生存戦略としてのDE＆I～」
**参 加 者**｜山梨大学および山梨県立大学の教職員、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員　合計89名
**内　　容**｜少子化、人口減少が急激に進む地域社会において、大学、企業を問わずあらゆる職場が持続、発展していくために不可欠なダイバーシティ（DE＆I）推進の意義と必要性について、女性活躍、ワークライフバランス、働き方改革などの重要なポイントからお話しいただきました。若年層や未婚者層の近年の意識の変化については、「男女を問わず、仕事と家庭の両立を希望する人が増加しており、さらに育児休業の取得意向も高まっている」ことが指摘されました。こうした状況の中、「労働力が減少する現代社会においては、多様な人材が定着し、活躍できる組織をつくるためにも、ダイバーシティの推進は欠かせないものである」ことを強調されました。
**感　　想**｜「管理職の方は部下の特性を把握し、それぞれの特性を活かせるよう、また仕事のやりがいが持てるよう、よりよく仕事を進めていく必要があることなど、わかりやすく学ぶことが出来た。」「自分自身が古い考えであることに気づいた。適切にアップデートしていくことが必要と感じた。」などの感想が寄せられました。

## ご報告　令和7年度地域貢献型・若手研究者 研究者支援 採択者が決定しました

山梨大学限定

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の取組の一つとして、地域活性化につながる研究を進めている、女性研究者あるいは若手研究者であって、自由な発想で独創的な研究を進める本学女性研究者を対象に、地域貢献型・若手研究者 研究支援を行っています。
全学に公募を行い、審査委員による審査の結果、以下のとおり採択者が決定しました。　※敬称略、五十音順

| | 氏 名 | 所 属 | 研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 地域 | 八重樫　咲子 | 工学域 土木環境工学系（土木環境工学） | 水性外来種の捕食がもたらす在来底生生物相への影響の解明 |
| 地域 | 若山　清香 | 生命環境学域 生命農学系（発生工学研究センター） | 山梨県原産の日本犬、甲斐犬における遺伝子保全に関する研究 |
| 若手 | 朝比奈　千沙 | 医学域 臨床医学系（循環器内科学） | 山梨県の心臓突然死を減らし健康寿命を延ばす<br>ー7 日間パッチ型心電計を活用した新たな試みー |
| 若手 | 石山　詩織 | 生命環境学域 生命農学系（地域食物科学） | 災害ストレスが誘発する生活習慣病重症化の予測バイオマーカーの開発 |
| 若手 | 牧野　公美子 | 医学域 看護学系（看護学） | 認知症高齢者の終末期医療・ケアに関する代理意思決定支援の充実に向けた事例分析<br>家族以外の者が代理意思決定者の場合 |

## ご報告　各種 研究者支援制度について

山梨大学限定

男女共同参画推進室では、女性研究者およびライフイベント中の男性研究者の研究環境整備のため、様々な研究者支援制度を実施しています。令和7年度前期支援制度の利用状況は下記のとおりです。令和7年度後期募集については**ホームページ**をご覧ください。 ※キャリアアシスタント制度の令和7年度後期利用募集は終了しています。

| 制 度 | 概 要 | 令和7年度前期 利用人数 |
|---|---|---|
| キャリアアシスタント（CA）制度 | ライフイベント中の研究者へキャリアアシスタント（通称CA）と称する、実験や論文検索などの研究活動を補助するサポーターを派遣。 | 女性研究者5名/男性研究者12名<br>配置された研究支援員（学生）<br>女性17名/男性6名 |
| 産休・育休からの復帰支援制度 | 産後の特別休暇、および育児休暇から職場復帰した研究者に対し、研究助成金を支給。（男性の研究者は2ヶ月以上の育児休暇を取得した者に限る） | なし |
| 論文投稿費と英文校閲費支援制度（女性研究者のみ） | 女性研究者の論文作成に伴う経済的負担を支援。 | 3名 |

**国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室**
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37　TEL：055-220-8350　FAX：055-220-8351
E-mail：danjo@yamanashi.ac.jp　HP：https://danjo.yamanashi.ac.jp/diver/